

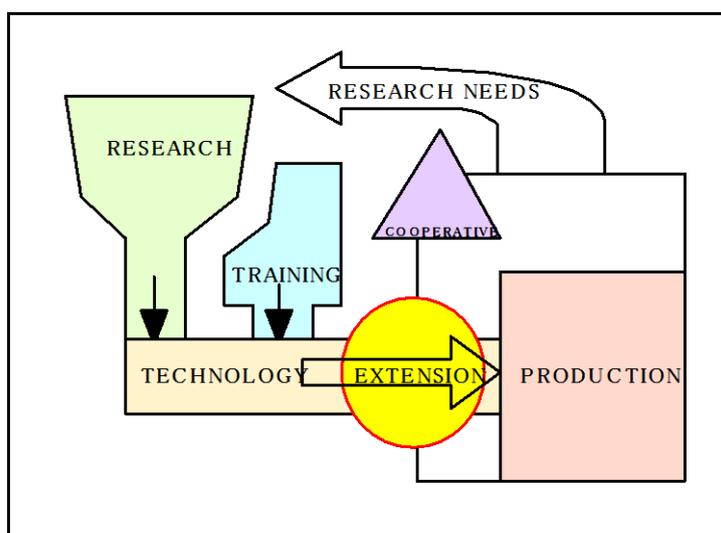
## シリアにおける農業普及ならびに普及員訓練

### 第1回： 今、なぜ農業普及が大切か？

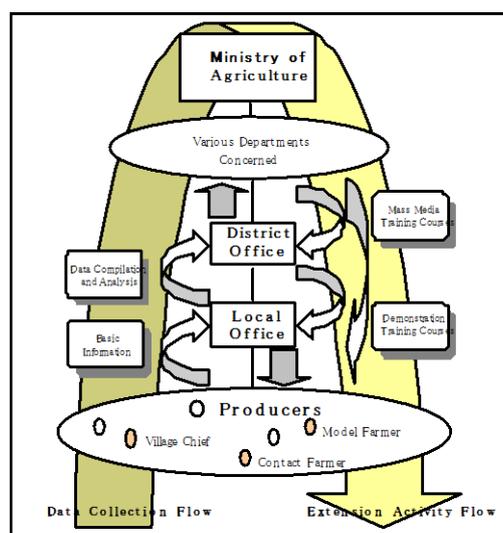
「人づくり、国造り、心のふれあい」とは、技術協力の目的を端的に示したキャッチフレーズであり、この言葉どおり開発途上国の国造りの主体となる人材の養成が技術協力事業の基本となっている。専門家派遣やプロ技といったタイプの技術協力では、これまで当該国に定着可能な技術の開発と政府職員への技術移転に多大なる時間とエネルギーを注いできた。ところが、こうした協力はその成果が目に見えにくく、途上国サイドからも「より目に見える成果」を期待される場面が増えている。したがって、途上国の自立支援を目的とした「人づくり」と、技術協力の成果を生産現場にまで普及し「目に見える成果」を生み出すための活動を両立させるために、普及活動の重要性が高まっていると考えられる。さらに、開発調査における近年の案件のソフト化という流れの中で、農業普及ならびに農民支援分野を担当する専門家の役割が益々重要なものになってきている。これは、農業農村開発計画の策定に当たって基本となる零細農民の所得向上という目標を達成するには、彼等に適切な技術・情報・知識を伝達するための農業普及活動が極めて重要な役割を果たすことになるからである。

次に農業普及活動を実施する普及員の役割に着目すると、わが国における農業普及の歴史を見ても明らかのように、従来の技術指導を中心とした役割から近年では農民の組織化による村おこしの推進役といった役割の重要性が増している。こうした活動においては、農業生産性の向上、生活環境の整備、指導者の育成等を総合的かつ計画的に展開する必要があり、そのためには地域の実態に即して普及員が指導チームを編成してその任に当る場面も増えている。こうした動きに、技術協力分野における参加型開発の浸透も加わり、普及員が参加型手法を身につけることの重要性も増しつつある。さらに、技術移転を実施する専門技術員としての役割や、農民の組織化におけるコーディネーターとしての役割も期待されており、こうした幅の広い人材を育成するために人的資源開発関連活動も益々重要になりつつある。

我々はこれまで、パキスタン、ラオス、ブラジル等で実施された開発調査での経験を通して、途上国における様々な農業普及活動の現状を学んできた。各国に共通した農業普及上の問題点としては、組織上の問題点や普及員の能力の問題が挙げられる。また、「普及活動に必要な施設が不十分である」、「普及機関と試験研究機関との連携が不十分である」、あるいは「効率的な普及活動に必要な基礎情報が普及所レベルで整備されていない」といったことが多くの途上国で指摘されてきた。こうした中で、我が社は中東のシリアにおける農業普及改善計画に長期専門家を派遣し、現在も普及員の教育・訓練計画に対して引き続き専門家を派遣している。そこで本シリーズでは、農業普及ならびに普及員訓練に関わる我々のこれまでの経験を紹介すると共に、今後の課題についても検討していきたいと思う。



シリアにおける農業普及の概念



ラオスで提案した普及の流れ